

**次世代の林業従事者確保
に向けた取組**

農山漁村振興部
石井 浩樹

林業従事者の高齢化・減少が全国的な問題となる中、地元高校生に将来の就業先として考えてもらうため、10月29日に国東高校園芸ビジネス科の2年生を対象に林業就業体験研修を開催しました。

森林の働きや林業の仕事について学んだ後、現地で立木の伐倒作業や高性能林業機械、ドローンを活用した森林調査の見学等を行いました。研修終了後のアンケートでは、「林業のイメージが良くなった」という回答が7割に上り、林業への就業を希望する女子生徒の回答もありました。今後もこのような取組を継続し、林業従事者の確保を図ります。



高性能林業機械の操作 ドローンの映像を確認

**排水対策による
水田畑地化の推進**

生産流通部
赤野 和恵

水田に園芸品目を導入する際、一番の課題となるのは排水対策であるため、9月12日に国東市安岐町で管内の生産者や関係者を対象に研修会を開催しました(参加者86名)。

研修会では、キャベツ作付前のほ場を使って、簡易な集水枡の設置と弾丸暗渠等の体系的な排水施工方法の実演を行っており、参加者は講師の話に興味深く聞き、熱心にメモを取っていました。

今後は、集水枡の設置による効果等を検証しながら、排水対策の取組を支援していきます。



集水枡の設置実演

**日本一のホオズキを
支える担い手の確保**

生産流通部
渡邊 英城

杵築市ファーマーズスクール(ホオズキ+ヤマジノギク)の入学式が9月11日に開催されました。

入校した1名の研修生は、県外から杵築市山香に移住し、2年間の研修期間を経て、農業経営をスタートさせる計画です。

現在は、就農コーチのほ場で、ホオズキの裏作にあたるヤマジノギクの研修を実施しています。

「日本一のおおいたホオズキ」を支える主要産地として、引き続き、杵築市を中心とした関係機関が一体となって担い手確保と産地拡大に努めます。



県外から移住して研修に取り組む入校生

**杵築市で茶産地育成
事業の工事着手**

日出水利耕地事務所
渡邊 祐樹

平成18年に(株)伊藤園、大分県、関係市で茶産地育成協定が締結されたことを契機に、現在、茶の大規模産地づくりを目指して県内各地で茶園の造成が進んでいます。

杵築市山香町では、農事組合法人カヤノ農産が県営農地中間管理機構関連農地整備事業を活用して、今年度から2か年計画で9haの造成を行っており、10月から造成工事に着手しました。事業が完了すると農事組合法人カヤノ農産の植栽面積は70haに達するなど、茶の産出額向上が期待されます。



茶園造成工事の進捗状況(11月時点)